

## 令和5年度 新入職員歓迎式典 理事長訓示

皆さん、おはようございます。

理事長の小口です。

本日、皆さんを原子力機構の新しい仲間として迎えることができ大変うれしく思います。

原子力機構は、研究・開発を通じて、国の原子力に関する政策を具現化し、社会実装につなげてゆくための組織です。

皆さんも感じているように、昨年秋、岸田首相が2050年度までに脱炭素社会を構築する、いわゆるグリーントランスフォーメーション（GX）政策を打ち出して以降、原子力を巡る社会環境は大きく変化しました。

これはわが国のみならず、アメリカ、フランス、イギリスなどの諸国においてもほぼ同一の政策が打ち出され、ある意味グローバルな流れとなっていると言っても過言ではありません。

この試みは、単に原子力を発電手段としてもう一度復活させようとするものではなく、炭素を消費することで維持・発展させてきたこれまでの社会の在り方を180度転換し、炭素を使わない新しい社会を構築するという実にチャレンジングな取り組みであります。

その実現に向けて、リニューアブルエネルギーの活用とともに、原子力はそのポテンシャルを最大発揮することで中心的役割を果たしてゆくことが期待されています。私たちはこの壮大な任務に取り組む歴史的な瞬間にいると言っても良いでしょう。

私はこの任務を明確に全職員が共有するために、この4月から始まる新年度のビジョンとして「ニュークリア×リニューアブルで拓く新しい未来」を掲げました。

これは原子力かリニューアブルかという、ともすれば不毛な二元論を排して、脱炭素社会、即ちサステナブル社会を構築するという大目標を達成するために、原子力とリニューアブルがその長所を伸ばし合い、短所を消し合うことで、新しいサステナブル社会を目指してゆこうとするものです。

このように社会実装という側面で原子力科学技術は全く新しい段階に入ろうとしています。

そのためにはこの時代の要請に応じ、私たち自身が変わってゆく必要があります。言い換えれば過去の延長線上に原子力機構の将来はないということです。

また同時に、原子力科学技術だけですべての課題を解決できる時代ではなくなっています。原子力はリニューアブル関連技術だけではなく、ITや化学などの周辺科学、更には社会科学などの幅広い科学・知識を集約した総合科学の世界に入ってきています。私たちはそのため

の準備もしなければなりません。

また、原子力科学技術をすべて一國で賄える国はありません。従って、特に価値観を共有する諸國との国際連携は不可欠です。また国際連携は別の言い方をすれば国際競争でもあります。原子力機構が如何に最先端の知識・知見を持っているかが国際連携する上でのキーになります。私たちは他國が欲しがるとな技術を磨かなければなりません。

更に、原子力技術を実装する上で、社会とのコミュニケーションはこれまで以上に大切になります。社会に受け入れられない限り私たちは前にも後ろにも進むことはできないのです。

以上、いくつか重要なポイントを申し述べましたが、これらは言い換えれば、原子力機構自身がいわゆる狭い「原子カムラ」から飛び出し、社会と上手く共生しながら、幅広い知識・知見を身に着けて、サステナブル社会の実現という大きな目標に向かって全力でチャレンジすることを意味します。

皆さんはこの歴史的転換点にあって、これまで培ってきた力を存分に活躍できる舞台に立ったということです。このことの意味深さをこの機会にしっかりと噛みしめてもらいたいと思いますし、皆さんの若い力で、この原子力機構に新風を吹き込んで頂きたいと思います。

そうは言っても現実はその簡単な話ではありません。皆さんもこれから厳しい事象に直面したり、行く先を見失って迷い道に入ったりすることもあるでしょう。自分が思い描いていた夢と現実のギャップに悩むこともあるかもしれません。

振り返れば私自身もそうでした。しかしながら、そういう時にはより目線を遠くに置くことです。私たちはサステナブル社会の実現と言う人類始まって以来の壮大な夢にチャレンジするのです。これは誰にもできることではありません。原子力機構の職員だからこその特権だと思って、今一度心のギアを入れ直してください。

そして誇りを以て取り組んで頂きたいと思います。

そして皆さんが社会に貢献しつつ、それぞれひとりひとりの人生を豊かなものにしていかれることを心から望んでやみません。